

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターはぐはぐ子ども村			
○保護者評価実施期間	令和7年1月15日		～	令和7年2月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	86	(回答者数)	60
○従業者評価実施期間	令和7年1月15日		～	令和7年2月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数)	20
○事業者向け自己評価表作成日	令和3年3月10日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	基準以上の人員を配置している。	クラスを午前午後合わせて5クラスに編成し、担任制ではなくチームで支援している。活動を通して、アセスメントを行い、支援に生かすようにしている。	職員の支援の質の向上を図るため、事例検討やロールプレイなどを行い、子どもたちへの理解と支援につながるよう職員研修の充実を図っている。
2	いつでも相談できる環境を整えている。	担当児発言や施設長などいつでも連絡を取れる体制をとっている。公認心理師が保育園・幼稚園を訪問し、連携を図り、子どもたちの共通理解に努めている。センター機能強化事業として「は・ご相談所」という窓口を設けている。	相談内容に応じて、公認心理師との面談へつなげたり、療士等の助言をもらうなどしている。
3	専門性を療育に生かすことができる。	公認心理師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、保育士などが専門的視点を持って子どもたちの理解に努め、療育に生かしている。	療育後のカンファレンスを行っている。日常的に関わりが困難なケースは、相談するようにしている。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ご家庭で子どもたちが事業所での様子を話す事が出来ないため、センターでの様子をもっと知りたいという声がある。	支援員は、来所時から降所時まで子どもたちと一緒に過ごしているため、日々の活動の様子をお帳面等で知らせる事が出来ないため、電話やメールで問い合わせをいただいたり、特に伝えたい事柄は事業所からも知らせたりしている。	希望があれば、療育の様子を見学することもできるようにしている。活動内容は、月1回のお便りで知らせ、個別には定期的に画像つきのミニお便りを発行している。外にお出かけなどの情報は、事前にお知らせするようにしているが、施設内でのいづれも違う活動でも可能な限り知らせていきたい。
2	父母の会がない。	感染対策として、母子通園を今休止しているため、保護者様同士が出会う機会が減っている。	年に2回、家族参加型のイベントを企画したり、保護者様向けの講演など企画しているが、出会いはしても交流までには至っていないという意見があるので、交流しやすいイベント内容を検討していきたい。
3			